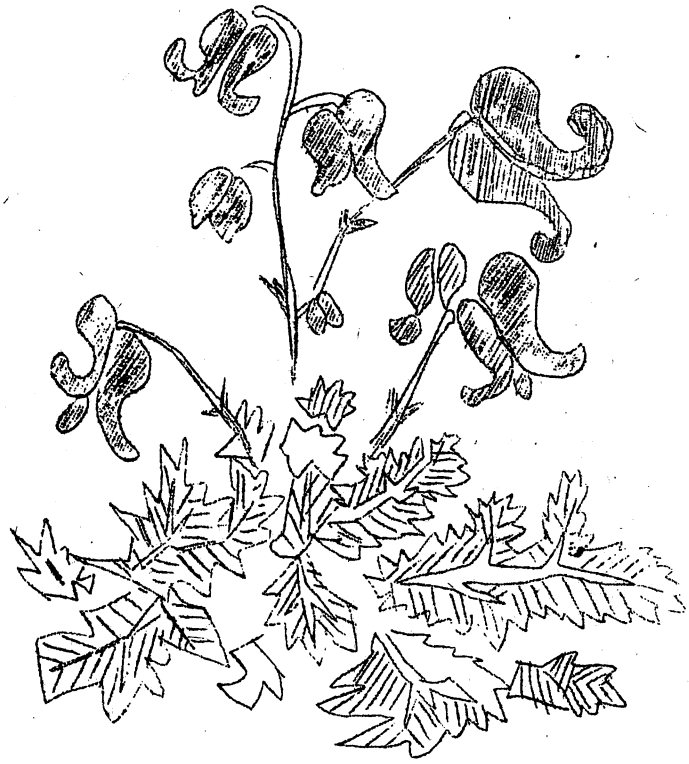
昭和47年

春山個人山行報告



信州大学 伊那・松本山岳部

○中央アルプス　片桐松川

Member　川口隆　高橋雄二　三井和夫　渡部光則　(全員2名)

期間　(1972年　1月28日 ～ 1月30日)

記録

1月28日　天気　快晴

上片桐駅 (9:00) ― 林道終点 (11:00) ― 煙ケ滝 (13:00) ― コワタル沢出合 (14:30)

上片桐より田舎道を抜け、林道に入る。早春のようなのどかな雰囲気であった。林道終点より30分程進むと一枚岩にさえぎられる。アプザイレンで通過。早くも渡渉を強いられた。オーバーシューズをつけすばやく渡る。ここで雄二君寒中水泳を楽しむ。数回の渡渉を限え1ピッチ程で煙ケ滝に着いた。三番目のガリーから高巻きを終え河原を1ピッチ程進むとなんということもなくコワタル沢出合に着いてしまった。ここまで雪はほとんどなかった。焚火を囲み濡れた物を乾かす。厳冬とは思われない沢であった。

1月29日　天気　晴れ

コワタル沢出合 (7:30) ― 大ナメハ丁 (9:00) ― 大島沢出合 (11:00) ― 小廊下 (12:30) ― 紅葉の滝 (13:30) ― 小松沢(稜線まで300m程) (15:00)

大ナメハ丁の初めは右側を高巻き核心部に入る。途中時ならぬ侵入者に驚いて猿の一団が逃げて行った。アイゼンをつけ左側をへつる。右側に飛び移り10m程の強上をザイル使用で越す。期待は全く裏切られ水がとうとうと流れているではないか！最後の大滝は(15m)ザイル使用2ピッチで左側を高巻く。谷の側壁は氷が発達しておりトップは結構楽しそうであった。しかしハーケンの打てない側壁をよく突破してくれました。大島沢出合を過ぎる頃になると若干の積雪が現われてきた。しばらく河原をたどると再び谷は せばまり廊下状になった。水量が多いため、早くも高巻きを強いられる。10m程のルンゼ状の所をカッティングで登り、ゴボウで樹林帯に出る。枝沢には4段100m程ありそうな滝が険全ながらも氷っていて圧巻であった。高巻きを終え再び

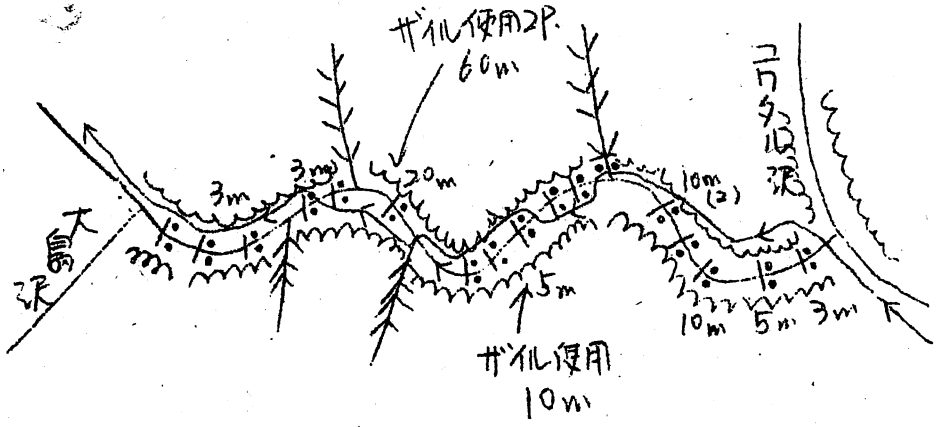
河原を2・3の滝を越えながら進むと紅葉滝（20m）である。夏ならば楽々と滝を越せるのであるが我々は左側のルンゼから滝を越える。小松沢に入り2ピッチ程進んだ所でテントを張る。

1月30日　天気　雪

小松沢内（7:40）——主稜線（9:00）——池の平（9:40）——烏帽子岳（10:40）——小八郎岳（13:00）——上片桐駅（15:15）

冬山らしくなった中を沢筋いっぱいに残った雪に苦しめられながらラッセルして1ピッチ半程で稜線に出た。残雪は1m程であった。池の平を越え烏帽子の下りになると切通しもなくなり、ちょっとした岩場に苦しめられる。セキナギ、小八郎岳を越え、スタコラ山を下り神社に出た。ゆっくり休み駅へ下った。

大ナメハ丁



文責　川R.

○南アルプス 仙丈ケ岳

期日　昭和47年2月24日～26日

メンバー　CL 小根田（43年）　小林 川口（2年）　西部 服部 西川（1年）

行動記録

2/24　伊那（7:30）— 戸台川原（9:15）— 円涙（11:30）— 八丁坂（13:10）— 北沢峠（14:25）

小根田氏のアパートをサニーで出発。マダマダ行けるような調子で 川原をアドベンチャードライブ。突堤のあたりから雪がなくなり 先発は素足でザブリンコ。雪解け水の冷たいこと……
円涙にて 川口氏と合流し トレースのバッチリついた道を北沢峠に登る。そこに B.C設置。

2/25　BC（8:00）— 三合目の小尾上（8:55）— 樹林帯を抜けた所（9:52）— ヤッケ着用 — 仙丈ケ岳（11:55）— 1本（13:20）— B.C（14:20）

天気良好。北岳が野呂川をはさんでそびえているのを左手に見て、樹林帯の稜線を行く。樹林帯を抜けた頂より少し強い風がそよそよ吹き、千鳥足でヨロヨロ、ピッケルにすがりながら頂上にたどり着く。アトハ B.Cまでゆっくりと下山。

2/26　B.C撤収（9:35）— 円涙（10:30）— 白糸滝堤付近（12:20）— 伊那 解散（14:00）

文責　西川

○五葉東面（大蓮見B.C）

期間　4/28～5/1（4日間）
メンバー　L. 市野（5名）鈴木（2名）
行動記録

4/28（金）
① 13:25 松本発
14:50 神城
15:25 スキー場
※ 雪山が、各村山のスキー場跡に幾つも群落を作り満開。傷のコブシを見ても落葉松のあわい芽吹きや稜線のすだち雪と調和して心もはずむ。
① 16:00 リフト終点（リフト下へツェルトを張る）

4/29（土）
○ 5:50 出発
※ 尾根に取付くとすぐに雪解水の流れに沿って、3本のヒウが散在し、初めて実物を見る発神草や水芭蕉が可愛いい。じきに、雪を踏むようになり、強い照返しに汗が吹出してまいる。
7:55 蓮見小屋上部
9:00 小蓮見トラバーて終了点
※ 快晴の空の下に目指す五葉東面、遠妻や、カクネ里から続く鹿島槍の北壁がグッと間近く迫って来る。
11:15 大蓮見
※ 30分程、B.C適地を捜したが、どこも似たようなもので、頂上付近の針葉樹の間にツェルトを張る。ここに来るまで、名ヒ等の、DPやごみやすをキョロキョロさがしたりしたがうくなかはなかった。ただ、カラスが上部まで、ゴミに誘せられて登って来るのに驚いた。後は、ゆっくり、山を見ながら、日向ぼっこをする。

4/30 ○ 3:15 起床
(日) 4:40 食料の一部を残し、ビバーク体制で出発。(北尾根に向う)

※取付までは、大遠見南西尾根を忠実に相当下ってから、右にトラバースしたらが、密藪と思われる。我々は、尾根の右を下って、少々、急なブッシュなどにてこずらされた。

① 5:25 取付

※取付点は、北尾根の3本に分岐した支尾根の中尾根の右の明瞭なルンゼに入り、100m程でブッシュをつめて、左の中尾根に抜く雪も気持程で上に出る。

アイゼンをアイゼンを調にまかせて、というのはうそ！ダンゴに悩まされつつ、左尾根と中尾根との間のルンゼ状を急登する。雪がくさってラッセルに苦労する。

ルンゼのつめは、ブロック状に雪が切れており、緊張させられる。一応、ザイルを30m程出した。

この行は、コルラスタカットを通えて、雪のコブを尾根直に越えて行く。

北尾根のカケネ里側に比べ、右側は遥かに傾斜がきつい。カケネ里側の雪面には亀裂が入っているし、小さな雪崩もいくつかあった。

北尾にとりつく直中が、カケネの上部を巻いていた。

尚、雪庇は、右側に発達している。

○ 11:10 6時間かかってやっと北尾根を抜け、縦走路に出る。GWの頃まで行って、ゆっくりと休み、濡れた靴下等を乾かす。

13:00 3峯頂上 正下の急登取付。

※雪解水が光を伝っていたので、我慢出来ずに口を光に吸いつけての人だが、砂が口の中に流れ込んで気分悪し。

13:45 バラバラで3峯頂上

14:05 3峯小屋

◎ 15:15 B.C着

※B.Cで、レモンティーを飲みながら、仮眠をする。そろそろ、予想通り天候悪化のきざしが見え始め、底倉も雲に隠れてしまった。

◎= 18:00 雨が降り出す。

5/1 (月)

7:00 起床

※天気は悪化。午前中はもちそうなので、昼食に下山と判断。時を待つ。

◎ 9:10 発

10:25 小屋見つ手前のPeak

※入り時より、連休入りの為か、テント数が、うんと増えていた。小屋周辺合の松原が20〜30人居た。別人のようだ。変って別人と会うと、天気下り坂、そして、荷物は分かっているので、有頂天になる。スケーティングでどんどん飛ばす。

11:15 小屋下

※この後、多のものと思われるテープと新しい踏跡に誘い込まれ、正規ルートの右側の藪沢に入りこまされ、1P、やっぱ悪戦をさせられ、フーフー！しかし、カタクリやイチリンソウ、群落が、いくつもあり、なぐさめてくれた。

◎ 12:20　スキー場

◎ 13:20　神城駅

＊駅到着同時に雨が激しく降り始め、我々の判断と共に空に感謝し駅前の食堂に入りビールで乾杯！

2本だったが、よく回った。

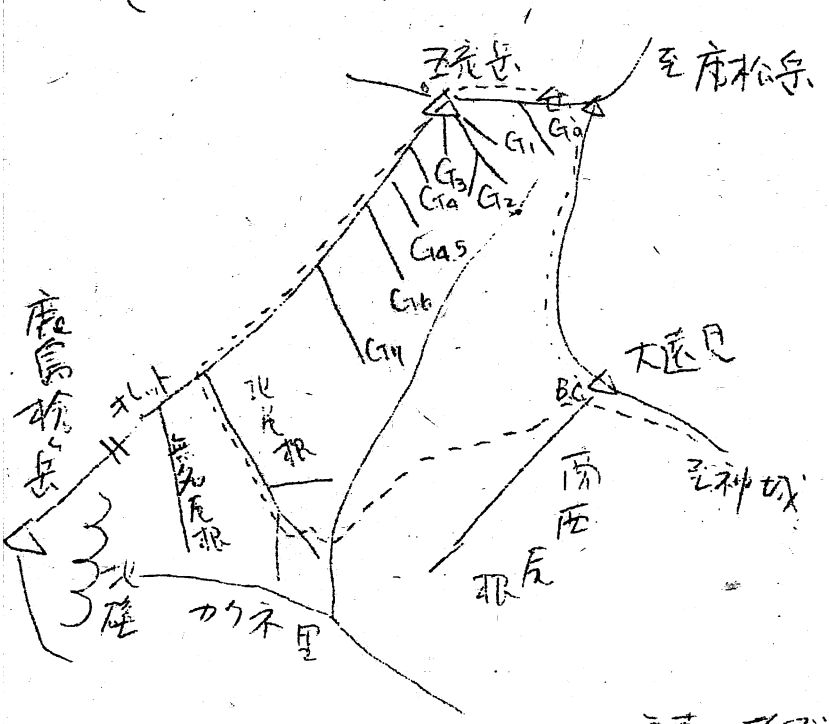
後は、松本まで汽車の旅である。

今回、北尾根1本のみに絞ったが、すばらしい山行であった。

ことに、北尾根とキレット尾根との間にある、明確な無名尾根は、誰の足も見ないし、思いのままやってみたい所である。

五竜周辺、もう1度訪ねたい所となってしまった。キザ！

（概念図）



文責　スズキ

残雪期剣岳北方稜線報告書

期間 4/26 ～ 5/1

メンバー

CL 高橋雄治(3)　SL. 川口隆(3)
三井和夫(3)　服部幸雄(2)

剣岳には12/1～5/15の間富山県届出条例がある。そのうちいわゆる積雪期にあたる4/15までは特に制限を受ける。したがって現在の我々には積雪期の剣岳の経験がないゆえにすぐ冬山、春山に剣はやれない。だから比較的制限のゆるい残雪期に「積雪期の剣岳を目ざしての第1歩」としてこの計画が生まれた。したがって今回のトレースによって以後の計画がやりやすくなったということで今回の剣が重要性を持つ。

雪の剣といってももうほとんど新鮮さを見出せないのが現情である。残置フィックス、ハーケンは予想した所に必ずあるし、窓には人の分身の匂いが漂っている。しかし穂高などに比べるとまだ救われる。我々は目をつぶり、鼻をふさぐことによってまだ登ることができる。それに我々も俗化させているのだから。

剣の稜線は4～5月ならば雪は安定しているし、雪ピもかなり落ちているし、アイゼンワークさえしっかりしていれば大して問題ではない。問題となるのはそれ以前の積雪期である。今回の場合から考えてみると、大窓の頭への登り、岩峰の通過、池平山への登りのガリー、小窓のコルへの下り、小窓尾根への登り、小窓の王のトラバース、池ノ谷ガリー、主稜線のナイフリッジ、等のように大窓のコルから剣のピークまでのほとんどの場所でナダレと雪ピに悩まされるであろう。

積雪期の剣北方稜線の成功のカギは雪の状態と天候の判断にあると思う。あとは祈ればよい。

行動記録

4/26　目をしょぼつかせながら6:28発の電車で上市まで行く。伊折までのバスは連休前のせいか登山者は我々だけであった。伊折から歩き始めるが車に拾われて両掛島に着いた。

届出の変更を補導センターに伝えて歩き出す。ブナクラ谷の出合あたりから雪道となる。取入口で堤防の下を左岸に約り堤の上から右岸に渡渉する。まだ水は冷たい。ここから逆S字状ゴルジュが始まるが水量が多くて通れない。(秋には通れた) 踏跡の導かれて赤谷尾根の支尾根から高まく。高さにして50mくらい登り沢状の所からデブリで埋まっている白萩川に降り立った。ゴルジュはまだ続いており右岸に渡渉する。水量が多く足をすくわれそうだった。このあたりから大窓が真正面に見える。沢は西側からのデブリで完全に埋まっていた。池ノ谷は出合の雪がズタズタでゴルジュは通過不可能のようだ。雷岩を右に見て約1200mあたりまで行き幕営する。　天気は◎時々●

Time　富山(6:28) ～～ 上市(7:50) バス 伊折(8:50～9:10)
馬場島(10:00～10:45) ― ブナクラ谷出合上部(11:30)
池ノ谷出合(1:00) ― 1200m地点(2:10)

4/27　4時すぎに起きたものの雨で待機する。回復する見込みなので思いきって出発する。2300m以上はガスが厚くたれこめていた。幸いにも大窓までは視界がよかったので落石からの危険は避けられそうだった。雪がないと危険なガラ場はほとんど埋まっていてただしんどいだけの斜面であった。大窓ではガソリンを見つけてたき火をして暖まった。大窓の頭までのルートはほとんど雪はなくハイ松に苦労した。頭から南はガスなので頭の東に幕営する。高橋、三井は偵察とルート工作に出かける。池ノ平山の手前のピークまで行き、帰りに第2岩峰の黒部側に35mのフィックスをする。夜はあられが降りカミナリの音も遠くでしていた。フィックスはハーケン1本とカンバ
天気は◎時々●のち△

Time
T.S(7:30) ― 大窓(10:40～12:00) ― 大窓の頭
のT.S(1:00)　(3:00～4:00)偵察とルート工作

4/28 待ちに待った快晴となった。北には毛勝そして海まで見わたせ、南には雪稜の向うに悠々としたチンネをしたがえた主峰がそして後立山、遠くに南アルプスがかすんでいる。第1岩峰は白萩川側をまき、第2岩峰は黒部側の雪のバンドをトラバースする。あとはアイゼンをきかして快適に進み、池ノ平への登りにカンバの木を支点として30mフィックスして池ノ平山に着いた。小窓尾根へのルートがよく見えるがどこも急な雪壁となっていて絶望的な高さにそびえていた。このあたりから雪がくさっていてズボズボ股までもぐりだした。稜線を進み小窓のコルを目ざして切れている岩壁帯に出る。春のフィックスが合計100mくらいあったのでそれを使って小窓のコルへ降り立つ。そこから夏のルートである大滝の右手の支尾根から取りつこうとするがキスリングでは登れずルンゼから小窓のコル寄りの雪壁を登る。池ノ平から見た感じと異って難なくラッセルは苦しいけれど稜線に出た。稜線を進んで小窓の王のコルに着く。ここが最大の難所である。残置ハーケン3本と2本打ちだしてザイル2本フィックスする。最後は残置フィックスを使い合計90mのフィックスで2Hかけて通過した。雪が不安定で苦労した。三ノ窓には予想に反して他に誰の足跡もなかった。我々だけの三ノ窓だった。終日快晴○

Time

(5:45出発)—池ノ平山手前のコル(6:45～7:10)—池ノ平山(7:45～8:10)—小窓のコル(10:05～10:35)—稜線(11:45～12:00)—三ノ窓(3:00)

4/29. 朝快晴であったがすぐ無気味な雪が西からおし寄せてきた。池ノ谷ガリーは表面5cmの層が不安定でフラットに置けずキックステップで登る。一気に池ノ谷のコルから次のピークまで登る。ここから不安定な雪のナイフリッジとなりアンザイレンする。川口、三井のPartyが先行し高橋、服部が続く。急にガスがわき視界が40mくらいになる。スタカットとコンティニュアスを交えて進み1.5Hで長次郎の頭に着いた。このときどういうわけかガスが消えて快晴となる。剱尾根、小窓尾根、源次郎尾根、ハツ峰のすばらしい雪稜が見わたせた。頭から長次郎側をまいて長次郎のコルに着いた。

コルから急な雪壁を慎重に登りあとはなだらかになり剣岳頂上に着いた。少しの休みののちアンザイレンして出発する。早月尾根の降り口はスタカットでルンゼ状の所を下り、カニハサミは風池1谷側をまきシシ頭に出る。ここまでスタカットで下る。あとはコンテで下り烏帽子岩の上部と下部をスタカットで降りた。2600mの地点で初めて登って来る人に出合った。ステップがあるので楽になった。ザイルを解きどんどん下る。1900mあたりから下からどんどん人が登って来る。後で聞いた話では300人くらい入山したらしい。我々が第1号で気分がよい。バテ気味なので1700の台地に幕営する。

天気は快晴、

Time. (6:00出発) ―最初のピーク(7:10) ―長次郎の頭(8:50～9:30) ―頂上(10:15～10:45) ―シシ頭(11:30～11:50)～2600m (2:50～3:10) ―1700地点(4:45).

4/30 今日も天気予報とちがって快晴である。今までの緊張から解かれて昼ごろまで雪の上で日光浴をする。昼前に下り始める1300m以下は半分ぐらい土も出ていてコブシ、カタクリの花が咲きほこっていた。途中わすれ物やら山菜取りで道草をして、馬場島に2時半ごろ着いた。雨が降りそうなのでバンガローの水事場の屋根の下で寝た。

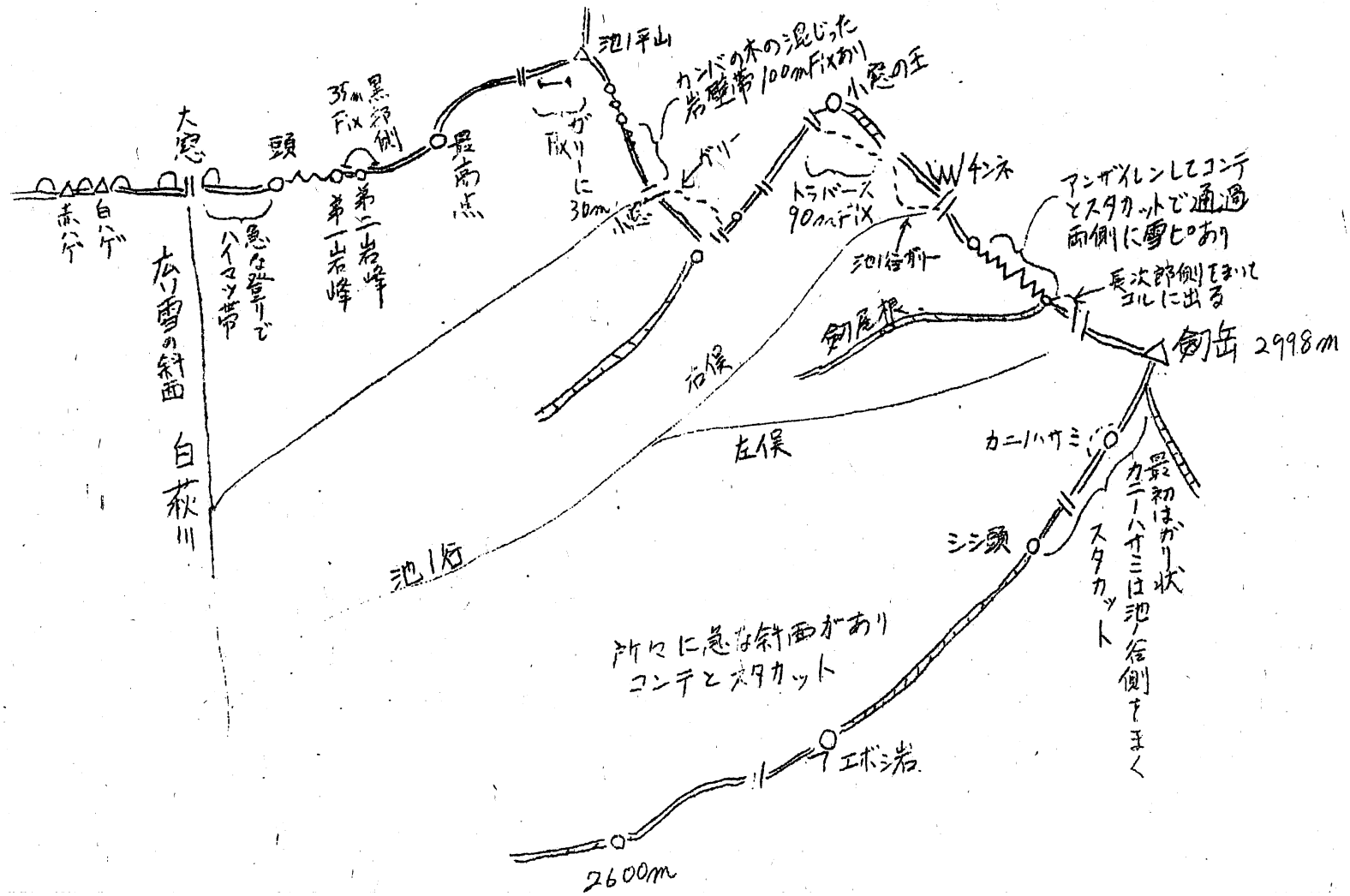
天気は○→◎

5/1 服部が裸足で歩いていて足にくぎをさし歩けず中村商店の車をチャーターして伊折まで行った。

反省点

- 軽量化が中途半ばであった。
- 装備の悪さ―幸いにもテント杭が折れたが大事にはいたらなかった。寸物はだめである。他にスコップも折れそうであった。
- 2年の服部のザイルワーク(コンテ、スタカット)◎の未経験であったこと。
- リーダーが単独で行動した場合があったこと。
- 計画の段階で最初にリーダー会の許可を取るべきであったこと。

(以上 文責 高橋)


赤ハゲ
白ハゲ
大窓
広い雪の斜面
白萩川
頭
急な登りでハイマツ帯
35m Fix
黒部側
第一岩峰
第二岩峰
最高点
池ノ平山
ガリーに Fix 30m
カンバの木の混じった岩壁帯 100m Fixあり
ガリー
小窓
小窓の王
トラバース 90m Fix
池ノ谷ガリー
4ンネ
アンザイレンしてコンテとスタカットで通過 両側に雪ヒロあり
長次郎側をまいてコルに出る
剣尾根
剣岳 2998m
右俣
左俣
池ノ谷
カニハサミ
最初はガリ状 カニハサミは池ノ谷側をまく
シシ頭
スタカット
所々に急な斜面があり コンテとスタカット
エボシ岩
2600m

鹿島槍ヶ岳ダイレクト尾根

○Member　川口隆(3)，西川義満(2)

○期日　5月13日

○行動記録

松本 — 鹿島 (7.05) — 大谷原 (7.55) — 西俣出合上 (9.05)

ダイレクト尾根取付 (10.50) — 鹿島槍南峰 (14.25〜15.13) — 冷池 (16.00)

— 西俣出合 (17.10) — 大谷原 (18.00) — ヤナバ駅 (19.20)

今にも降り出しそうな雲を見ながら大町にて一時間バスを待ち，なかなか降ってこない天気の中をダイレクト尾根に取り付く，明日は絶対に降るとの確信のためか，今日中に下山しようかなどと話しながら南峰のpeakで紅茶などを飲み50分程休む。そのうち下山することが自然と決ってしまい，冷池を経て赤岩尾根から西俣をグリシリセードで下降。あとはヤナバ駅まで歩いてハイリしマデ。

皆さん，松本から近くて日帰り出来る山
鹿島槍に登りませう

(西川，記)

鹿島槍 唐松 大冷沢 周辺

S47.4.28～5.2

L渡部(A3) 中田(L3)

4/28 入山

松本 電車 大町 ① 11:25 バス 鹿島 12:00～12:10 ① → 大谷原 12:55～13:05 ① → 西俣出合 14:20 ①

大町の駅前から眺め、雪のダイレクト尾根に胸がはずんだ。鹿島の部落は、コブシの白い花ざかりの、静かな山村だ。五月ルーキー入山初日は、いつも腰が重くていけねえ。互いに顔と見合せてニヤリニヤリ。それでも西俣出合に早く着き、ちょっと信じかねた。西俣の出合の下に、ダムがあり、そこからは雪の上の道となり、ルートをさがして少しウロウロした。西俣の出合の少し上に、数張り天幕が張ってあり、我々は、風接にもってこいの大きな岩の横にベースを設営した。夕方遅く、となりのテントに帰ってきたのは、何と十人以上の Mädchen ばかり。東京の某女子大山岳部。合宿みたい。オッカネエ——。

夕食後、入山祝に、少しアルコールを飲む。

4/29 北俣本谷 ⇒ 鹿島槍 N.P.

BC 5:05 ○ → 三沢出合 5:45～55 ○ → 二俣 7:20 → 左俣 → 右へ → 稜線 9:25 ○ → 鹿島槍 N.P 9:35 ○ → 下降点 10:15 → 左俣 → BC 11:30 ○

最初はクラストしていた雪も、今日の快晴、強い日射しと共にガボリだし、えらい急なルンゼの登りとなった。三沢出合を過ぎるとゴルジュ帯がある。このあたりから、谷はデブツの山でものすごい。ダイレクト尾根からの落石に気をつけながら、ガボル雪をひたすら高度をかせぐ。左俣は中程で二つに分れ、その右手のルンゼにルートを取る。稜線直下は、やはり急で、雪庇の切れ目、ゆるそうな処を選んで乗越した。ピッケルを向う側の斜面に差し込んで、ぐいと空に顔をあすと、とたんに、ほほを打つ風。首だけ、稜線上に出して、向こうの剣の稜線を、しばし眺めた。

北峰を往復し、昼をすませて Essen を取った。もと来たルートを下る。二俣まで快適なグリセードだ。やはり、ダイレクト尾根からの落石、雪庇の崩解が恐い。後はえちらくガボル北俣本

谷を、強い五月の日射に汗だくになって一路ベースへ。昨日と比べて、えらい人・人・人の群れ。ベース付近も、たくさんのテントで、にぎやかになった。帰天後は、例の岩の上でトカゲ。

4/30 ダイレクト尾根 ～ 鹿島槍 S.P

BC 5:10 ○ → 三沢出合 5:45～6:00 ○ → ダイレクト尾根末端 7:00～15 ○ → 取付のルンゼ入口 7:40～8:00 → ダイレクト尾根 末端 col 8:30～40 ○ → 岩峰アンザイレン 9:05～35 → 鹿島槍 S.P 10:15～40 → 北俣本谷 下降点 10:55～11:35 ○ → S.P 12:00～20 ○ → 冷池 13:20～40 → 赤岩尾根下降 → 高千穂平 14:50～15:00 ① → 西俣 → BC 15:30 ①

ダイレクト尾根の末端で、先行パーティの落石多く、2回時間待ち。急なルンゼをつめて、colからは、ガボル雪稜を、ひたすら登るのみ。下から顕著に見える三角状岩峰で、1ピッチ、ザイルを使う。10m位の岩登り（残置ハーケン1本有り）、左上へと回り込み、そのまま雪稜を40mのザイルが一杯になるまで延ばす。ハイ松を掘り起し、そこでビレイ。この地点でのアンザイレンにも、先行パーティのため10分位、待った。　ビレイ後は、そのまま、コンティニュアスで南峰へ。昨日下降した地点まで行くも、ダイレクト尾根上部から、スリーツャワーが、度々落ち、左俣へ小さな雪崩となるし、落石も加えてあるしで、しばし、下降点で、迷う。多分大丈夫とは思うが、一抹なりと、自分に納得の出来ぬ山登りはしたくないという事で、又S.Pへ帰り、赤岩尾根経由で下ることにした。赤岩尾根の下りの途中、鎌尾根の上部付近から、大きな雪崩が布引沢に走るのを見た。高千穂平から、西俣へは、樹間をぬっての快適なシリ尻セードを楽しんだ。

爺ヶ岳の西俣奥壁は、稜線への乗越が大きな雪庇で難しそうだし、稜自体もやせてかつ急、その上の不安定な雪、稜の半ばにある、もろい垂壁と、ちょっと、登る気にはならなかった。ここの記録は、一橋大学山岳部々報「針葉樹13号」にある。ダイレクト尾根は、名前からうけた印象とうらはらに、全く、面白味のない、易しい尾根であった。まだ、東尾根の方が面白そうだ。今晩も、ウィスキーをなめる。おとなりのテントから、下山コンパらしく、ソプラノの大合唱が聞こえてくる。こちらも、飲んで、歌をかナルが、何だか、ツラケル。　相手が、怪男児和尚じゃあ、タメ息ばかりが出てきて、実に切ねえ。気が狂わぬ内に、彼女達の歌を子守唄に、早々に寝た。　夜半から雨。

5/1 雨で沈。午前中、時々うす日がさしたりした。

5/2 下山

西俣出合 9:15 ◎ → 大谷下 9:55～10:15 ⊗ ～ ◎ → 鹿島 11:00 ⊙ ～ ◎

タクシー 大町 11:40 ◎電車 松本

もう一本、鎌尾根を登る予定であったが、稜線上の雪庇が、稜線と離れて大きく口をあけて、不安定な上に、昨日の雨、今日もなかなか雨はあがらず上部は今日も雪のようで白くなっていることなど、全然面白くなさそうな尾根のこともあって、今回は無理せず、下山とした。大谷原では雪がパラつき、うれしくなった。鹿島から、格安な料金で大町へと降りた。(タクシーに乗る)

○反省点 その他 etc

I、高千穂平から西俣へ下るルートを計画書に明記すべきだった。(ルートの勉強不足)

II、爺ヶ岳の西俣奥壁 —— スケールは小さいながら、技術的にはかなり高いものを要求されそうだ。稜線への雪庇乗越し、稜の中間帯にある、急なもろい壁(← 特に中央稜)が、ポイント。

III、4年目以下の現役では、今回初めての大冷沢周辺。雪上技術の基礎訓練には、なかなかいい処のようだと思った。

IV、快男児と怪男児の二人行。実に何の気がねもいらぬ愉快な山行でした。

快男児、稿。

黒部横断 S47.4.29〜5.2

L大安(S4)、臼井(L3)

4/29

松本 → 四谷 → 中山沢 8:15 ○ → 白馬尻 10:10〜20 ○ → 四谷雪渓下 12:20〜12:35 ① → 葱平 14:30〜14:40 ① → 丸山下 15:45 ① Camp.

さいわい、バスが中山沢まで入っていてよかった。大雪渓まで、前の老若男女のステップについていったら、全然大雪渓とちがう方に行ってしまい、やだねー。大雪渓の登りはきついきつい。俺は、入山前2〜3日風邪をひいて体の調子悪く、ゼイゼイいって登り、とうとうバテる。つくづく思ったね。3〜4年生同士でムに行くもんじゃないと。

4/30

C.S 5:10 ○ → 鑓ヶ岳 8:05〜8:25 ○ → 中背尾根下降 → 祖父谷 17:15 → Camp 18:30 ◎

昨日に続いて体の調子がおかしかったがなんとか登る。杖子のトラバースでピッケル、アイゼンなしで歩いていた人が、いたもんなの前衛的だなあ。その兄ちゃん「唐松まで行けますか」なんて聞いてくれたけど、酒のビンもっていたから、酔って歩いているんじゃないか。中背尾根は長かった。しかも1600m付近

からはブッシュ。腕力と忍耐の末、下部まで降りたがめんどくさいようになって、祖父谷へ下る。しかし橋へ行くには、渡渉せねばならず、試みたが、流れ強いうえに、深くあきらめて、テン張る。明日は、最底colより、祖母谷に下りることにする。夜雨がよく降った。ビッショリ濡れた。

5/1 CS 10:00 ① ―― 祖母谷温泉 10:40 ◎ ～ 11:10 ◎ ――
樺平 12:10 ◎ 以後 ◎
最底colを乗越して、祖母谷に降りる。温泉は使えず、しぶしぶ樺平へ行く。途中、ジーチャン、バーチャンに会う。まさに日本のエネルギーここにあり。ソラケタ。ウド尾根～毛勝は、あきらめて下山となる。

5/2 ◎ 樺平より黒部鉄道にて下山。
朝から雨。石倉温泉に入りに行ったら、そこのオバチャン、中背尾根を降りたと聞いてビックリして50円まけてくれた。おれだけ苦労して降りて、ぬるい湯だもの当然だよな。
お猿の電車に乗ってウド尾根見たら、ブッシュばかり。
雨降ってよかった。

○総括

I. 計画が安易すぎた。(資料不足)
II 中背尾根、ウド尾根は、雪なしでは、登れない。
III 上級生同士の山行の悪い面が出た。
IV. 体調が悪くても無理して入山した人生は、問題であった。

臼井 武. 稿

加賀 白山 S47.5.3〜5.4

三坂(A4)単独行

計画にあたって、――

連休前後の山行は、まだみんなのお荷物になりそうなので、一年生のお彼でもと、思っていたのに、お目当ての一年生は、いつになっても大学に現われず、結局ひとりさびしく旅だったのでした。

5/3 終日快晴、ごくうすい雲あり。

金沢野町 6:30 電車→ 白山下 バス 白峰 〃 市の瀬 〃→ 別当谷出合 10:00→ 甚之助谷 Hütte 12:10→ 室堂 14:10→ 御前峰 B.P 15:10 - 19:00 撤収→ 室堂 19:20

思ったより多い登山者と共に、新緑の谷あいをバスにゆられて山の奥へと入って行く時、半年もの間忘れていた、山へ入る喜びを痛い程、感じていた。バスは夏と同じ終点まで入ってくれるので、一時間程助かる。例年になく雪が少なく、一時間程歩いてようやく雪の上に出る。スキーで気持ちよさそうにおりてくる人を横目に見て、ひたすら足を運ぶ。スレブリにやる.キックステップの苦しいことったらない。新人合宿が思いやられる。室堂の冬季小屋は、すでに営業用に使っているため、貧乏な人は使えない。室堂付近は幕営禁止(あとでわかったのだが、積雪期でも禁止とのこと。解せない。)なので、ピークのあたりで、Bivouacすることにした。御前峰のほこらから、北西へ数十mのところの岩陰でZeltにもぐりこみ、しばらくうとうとする。ラジオのニュースでは、遭難はこのすぐそば、大汝峰とのcol付近であったようで、遺体は未収容とのこと。寺育ちの小生としては、夜中にうなされることもなかろう。夕食のしたくをしていると、光の弱くなりかけた外を人の歩く足音―― 出た! いやいや、そもそもあれはこんなに寒い季節には出ないものだ。それは長ぐつをはいた人だった。「室堂へ降りて下さい。」幕営禁止であること、遭難を例に、Zeltでは危険であることなど説明し、小屋に泊るよう要請される。ビヴァーク位かまわないだろうし、天候だって今夜は充分もつ、危険なことはない、と言っても、ひき下がらない。事を荒だてることは好まないので、素直に従うことにする。夕食もそこそこに、撤収し、もう夜のとばりのおりはじめた山頂を後に、かすかに明かりの見える室堂めざして、かけおりる。

5/4 くもり 午後から雨

室堂 5:00→ 大汝峰 5:30〜5:45→ 室堂 6:20〜6:50→ 甚之助谷 Hütte 7:30〜7:50→ 中飯場 8:10〜8:25→ 別当谷出合 9:10〜9:15→ 市の瀬――

白峰11:20～13:45 バス→ 金沢 15:50

小屋というところに 金をはらって 泊ったことは、ほとんどなかったのだけれど、マットレスやら ふとん(毛布)が 支給されるうえ、小屋は まだ、すっぽりと雪の中なので、夜は 暑苦しいほどだった。目が覚めたとき、まだ夜中かと 思ったが、もう5時 近くだ。軽い食事を ほおばりながら、荷をまとめ、サブザックで 大汝峰に向う。30分 余で 頂に 立つ。下は 不気味な 雲海。上には レンズ雲 があらわれ、予定より 早い 下り坂を 示す。雲海の上、ずっと東の方に 剣、立山…… 槍、穂高、乗鞍 が 島となって浮ぶ。今日は 5月4日……。小屋にひきかえして荷物をまとめて、少し早いけれど、即に 下山する。昨日 登ってきたときの苦しさはうそのように、どんどん下る。しかし 足腰が 疲れるし、下るにつれて暑さが増してくる。そんなに早く おりても、バスは 12時 すぎに ならないと出ないのだが。 途中 車をひろったりして、それでも たっぷり2時間は歩いて 白峰に 着いたときは、ホッとした。しかし、バスは 結局、別当谷出合を 12時 すぎに 出発する バスが 着くのを 待って 出発とのこと。何のために 歩いたのやら。とにかく疲れた。こんなに歩いたのは、本当に 半年ぶりなのだから。

山行を 終えて ——

両腿の腰の方は、割にいい。下りに少し 無理がないではないが、後は、体力の回復と山に慣れることであろう。 三坂 記

八ヶ岳 大同心 正面壁 雲稜ルート

S47、6、24 ～ 6、25 L"1口(A3)、村上(部外者)

6/24

美濃戸口 9:30 ◎ → 美濃戸 10:10～10:30 ◎ → 赤岳鉱泉 12:20 ◎

赤岳鉱泉まで 三時間 程で入る。途中 美濃戸では、いつものことながら、お茶の 接待をうける。Baseで 1ンビり、昼寝の 後、大同心 稜の 取付 付近を 偵察に 行く。

6/25 霧

早朝ガスの中を出発。大同心 ルンゼに 少し入り、大同心稜を登り 取付近 およそ一時間程。ガスが 相かわらず 濃いので、仕方なく 登る。開始後3時間 程で、大テラス。ガスが 幾分 うすくなる。ドームの基部に 立った頃、雨と雷に 会う。登攀 終了後、雷雨が 激しくなったので、急いで 大同心稜よりベースへ帰る。ベースに帰る頃は 雨も 止んでいた。ベース撤収して 往路下山。

登攀内容

1P 取付よりフェイスを15m程直上、ハングをボルトに導れ越す。2m程トラバースして、小テラス。 <30m>

2P 左の垂壁を人工で3m直上すると傾斜の落ちたスラブ。人工で20m程。 <20m>

3P 右のカンテボッの岩を巻き込み、小ガリーに入る。出口がかぶり気味 アブミを使って越す。この上は傾斜の落ちた草付となる。大きな岩に補助を使うが、安定した大テラスに出る。 <30m>

4P 右上するバンドを辿り、15m程で直上するクラックを登ればピナクル上のテラスにつく。 <25m>

5P 左の四角を人工で越え、右上するバンドに導れ、途中草付の崩れた所を越すと、ドーム下のバンドに出る <25m>

6P バンドトラバース ドーム基部 <20m>

7P カンテの左側を登る。人工にて途中小ハングを越え、カンテ上にある。カンテの右側に移り、最後の小ハングを越せば、大岡心の頭へ出る。 <30m>

川口記

中央アルプス縦走 S47、6・24 ～ 6・26

SL三坂(A4)、SL瀬部(A3)、井上(A1)、石川(T1)、尾崎(T1)、秋山(A1)、牧瀬(A1)、吉田(L1)、古川(T1)

6/24 伊那 → 濃ヶ池

伊那バスターミナル8:35 → 飯田市9:00～9:10 ① → 農協部演習林 HUHe前9:25 ② → 10:10～10:15 石川の体調変く、瀬部さんが荷をもつ → ちりめん坂の頭10:35～55 ③ → 大平小屋前 12:30 → 西駒山荘前15:35 → 15:55～16:30 ガス濃い、天気図を取る。瀬部さんが濃ヶ池まで偵察に行く → 濃ヶ池16:50 Camp

朝は天気が良かったが、上に登るにつれ、ガスが多くて展望がきかなくなったのは残念であった。
石川君が風邪のため、彼の調子が悪かった。山行前には十分体調を整える大切さが、よくわかった。
途中、胸つき八丁には、イワカガミがたくさんあって、とてもきれいだった。今回の山行は、新人合宿と比べると、ザックが軽かったせいか、ずい分楽だと思った。

6/25 濃ヶ池 → 空木岳

CS 6:35 → 西駒ヶ岳 Peak 7:45～55 ガス → 宝剣岳下 8:45 9:00 ④ → 極楽平 9:50～55 → 桧尾岳 11:55～12:08 1st 荷の荷を軽くする、⑤ → 13:40～14:00 突然アラレ

がふる。カッパをきる ——→ 熊沢岳 15:00 ⊗ ——→ 木曾殿小屋
15:15〜16:40 雨強く、雷が激しくなる。天気図を取り、待機。
——→ 17:10〜17:50 雷雨 ハイ松の中に避難。——→ 空木岳
18:30 ——→ 駒峰Hutte 18:40 ⊗

今日は、朝 太陽が出ていたが、南駒の頂上につくころから、ガスがこくなり、天気が悪くなった。檜尾岳につくころからアラレ混りの雨がふりだし、雷が鳴った。木曾殿小屋で1時間30分ばい行動したが、空木岳へ登る途中で、ピッチルが雷で鳴りだし、雷の音近く、ハイ松帯に別れて、ヒナンする。稜線上では、雷は、本当に恐しいものである。空木の頂上付近まで、雷は鳴っていた。ヒナン小屋に着く頃には、天気が回復しだした。今日のコースで、ハクサンイチゲ、キバナツバクロゲ、ショウジョウバカマ、等ど高い植物がもう咲いていて気分がよかった。檜尾岳には、コマクサが花は咲いてなかったが、たくさん見られた。又空木岳の登りに、ヒメウスユキソウが数本あった。駒峰ヒュッテ ヒナン小屋は、ゴミだらけで、感じが悪かった。

6/6 空木岳 ——→ 南駒ヶ岳 ——→ 越百山 ——→ 飯島

ヒナン小屋 4:05 雲海がすばらしい ○ ——→ 空木岳 5:20 ——→
南駒ヶ岳 6:35〜7:00 ——→ 仙涯嶺 8:00〜8:15 ① ——→
越百山 9:05〜9:15 ① ——→ 越百山稜線から、[illegible]中
小川沢下山口 9:30〜9:50 ——→ 相生の滝下 13:30〜13:45 ⊗
——→ 飯島駅 17:20〜17:45 ⊗ ——→ 伊那、松本へ

予定では、昨日は、スリバチクボのカールまで行くはずであったが、雷雨のため、空木岳までしか、来られなかったので、今朝は、早立ちだった。
山に入って まだ3日目であるが、下山はやはり楽しいものである。天気がよくて、雲海の上に、南アの連峰、御岳山、乗鞍岳などが高く見え、とても素晴らしかった。
中小川沢は予想もしていない程の悪路で、あった。78cmのキスリングを背負っていたので、かなり危い処があった。
林道を歩いて(与田切川林道)、飯島駅までの道が、非常に長く感じた。

牧瀬 記